

# IADR General Session & Exhibition - Cape Town , 2014



米山喜一

2014年6月25日から28日に南アフリカのケープタウンにて開催された2014 IADR GENERAL SESSION & EXHIBITION に参加したので報告します。

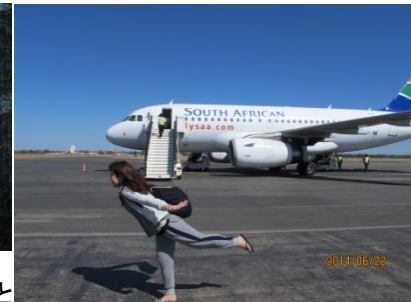


ケープタウンは、1995年にラグビーのワールドカップ、そして2010年にはFIFAワールドカップが開催されたことで有名である。IADR2014には、当講座からは細井名誉教授と松田先生、米山の3名で参加した。

私たちは、羽田から香港経由でヨハネスブルグへ向かうため、意気揚々と飛行機に乗りました。飛行機が滑走路へ到着し、エンジン音が高くなり飛行機がまさに飛び立とうとした時、なぜかエンジンが止まり、暫くすると、機内放送でエンジントラブルのため、点検を行いますとの放送。待たされること約2時間、ついに機外での待機を指示され、Transit cardと食事券を渡され、空港内へ後戻り。結局乗り継ぎの関係もあり、1日出発が延期となった。



渡されたTransit cardと食事券

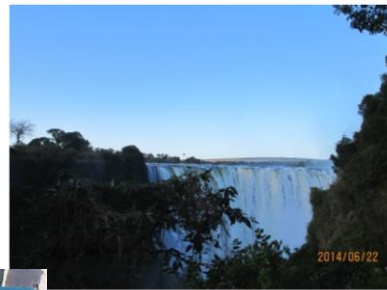


この飛行機は故障しなかった

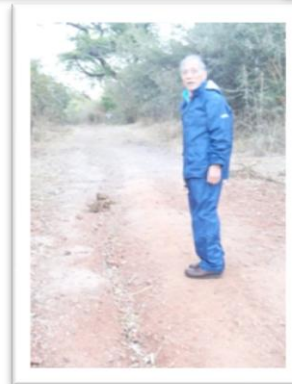
私たちは、ヨハネスブルグ空港から、ジンバブエとザンビアの間にあるビクトリアの滝へ向かいました。



どうにかビクトリア空港へ到着。乗り継ぎ時間を含めて約25時間



ビクトリアの滝の近くの樹齢1000~1500年のバオバブの木の前で現地のイケメンと記念写真



細井先生の前には象の糞

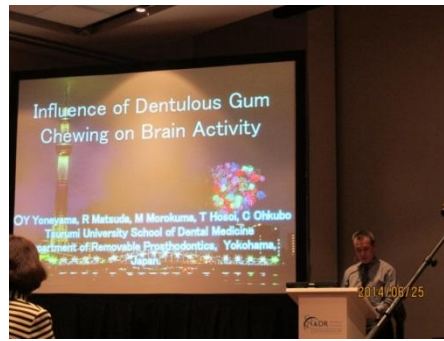
ビクトリアの滝は、世界三大瀑布の一つです。細井先生と私は、世界三大瀑布と世界四大大陸を制覇です。残すは、南極大陸のみです。翌日には、ケープタウンへ向かい、いざ出発です。



細井先生と学会会場の前で

学会は、ケープタウンのCTICC Convention Centerで開催された。IADRIはいつも多くの日本人参加者がいるが、今回は、南アフリカということもあり、日本人の参加者は多くないように思われたが、夜間の外出を控えたことと天候にも恵まれたため、とても良い雰囲気の中での学会となった。

学会2日目の昼に口頭発表 (Influence of Dentulous gum chewing on Brain Activity)を行った。座長は偶然にも以前イギリスでお世話になった、エジンバラ大学のAngus W.G. Walls教授であり、数多くの質問を頂いたが、座長の助けもあり、どうにか乗り切ることが出来た。脳機能と咬合の関連に対する関心の高さを痛感することが出来た。



エジンバラ大学のAngus W.G. Walls教授



発表終了後も多くの質問を頂いた

発表後に、3人で喜望峰の観光をした。喜望峰と命名したのは15～16世紀のポルトガル国王マヌエル一世。バスコ・ダ・ガマのインド航路発見を記念し、ポルトガルに希望を与えるという意味で命名されたのは有名な話であるが、実は、この岬は元々1488年 バルトロメウ・ディアスにより、穏やかなことが少ないことから、Cabo Tormentoso(「嵐の岬」と命名されていた。

南アフリカは、イギリス連邦加盟国であるため、英語が公用語として使用されている。また、食事は肉や魚介などもイギリスよりはるかに美味しい感じがした。



喜望峰での記念写真 ケープペンギンにも会うことが出来た



発表終了後の打ち上げ

海外の学会に参加すると、海外の研究者有名な研究者の発表を聞けたり、直接質問をすることが可能なため、大変良い刺激を受けることが出来る。また、異文化に触れたり、名所旧跡の観光をすることもできる。これらの経験は、何物にも代えがたいものであり、また次の発表へ向け頑張っていきたい。